明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可　（日刊）日曜及祭日の翌日休刊　明治四十二年八月廿六日（木曜日）　第百九十七號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●査證事務の遅延（某當局者の談）

近時漢城府及理事廳の査證々明事務遅延を訴ふる聲漸く大となり遂に商業會議所の請願となるに至りたるも之畢竟土地建物査證々明規則及之を取扱ふ官廳組織の不完全に基く結果にして現今の狀態にては如何に理事廳及漢城府に取扱の敏活を請ふも僅少の手心は之あらんも大体に於ては全く不可能に屬す例之ば殆んど無學にして權利關係の上に於て全く無關係なる統首洞長の認證を要せしむるが如き或は普通の行政廳たる郡衙又は理事廳をして調査の任に當らしむるが如き漢城府にては相當の專門技術者及比較的多數の職員をして執務せしめ居るに拘はらず尚ほ一日の證明件數纔かに五十件內外にして到底申請者の滿足を買ふ能はざる狀況なるに更に理事廳にては官制上全く之等の技術者を置き得ざるを以て內容調査不充分なるのみならず時日の遅延も亦從て甚し加之證明規則第六條には證明官廳の賠償責任を明示せるも前記の如く調査機關を缺ぎ且つ調査程度も現行法規にては明瞭ならざるを以て境界の爭議登記との衝突等の問題は未だ充分申請者をして安心せしめ得る程度に確定し居らず且つ添付すべき圖面の如きも最初は添付すると否とは隨意なりしものが後には法部訓令にて添付に決し見取圖にても可なるべきものが京城にては慣例上實測明細圖を要する如き諸種の關係は終に集合して今日の狀態に立至らしめたるものとす之元來土地建物査證々明規則は法典調査局の前身たる不動產調査會の民法制定に伴ふ第一の事業として傍ら私有不動產整理の前提として施行されたるものにして之に依りて從來默認の姿なりし外國人の內地に於ける不動產所有權を公然確認するに至りたるものにして其重大なる效果は本邦人の等しく感謝する所なるも而も之が爲め却て本規則の無かりし以前に於て單に文記又は家契地契の交付に依り並に完全に行はれし對韓人不動產取引は早きも一ヶ月遅きは必要時期經過後に漸く其手續を終る如き奇觀を呈するに至りては縱令不完全なる過渡的法律の心得己缺點なりとするも此際至急相當改正の必要あるを信ずと有力なる某當局者は語れり（日韓通信）

●蔚山の近況

蔚山にては昨冬以來米價暴落のため金融上其他に尠少ならざる打擊を與へたるが四月以來米價漸く上騰の氣合を示したると一面麥作の豐稔を眼前に控へたるに依り近時一般の景氣頓みに引立ちたる有樣なり▲次ぎに同地の商業は從來褓負商の開市日に露店を開きて日用品を販賣しつゝあるも未だ需用を充たす能はざるに依り近時日本商人より供給を受くるに至りたり▲同地日本人會は三十九年に組織されしが四十年八月小學校を設置したるが目下の戶口は戶數八十八人口二百四十八人にして小學兒童數は尋常一年より五年に至る五學級にて男女總數十六人なりと

俳句

●一題一句

△露。

朝立ちや尼か手にする笠の露　四樂
朝露や軒端にしけき尼のいほ　中庸
移り香のさらぬ間茂し袖の露　六坊
落人の裾れもたし露の朝　むら

△甜瓜。

韓人のれ遺もりやまくわうり　四樂
歌ひ女が甜瓜片手の不樣かな　六坊
高麗の野ゝ甜瓜の出來や日は盛　中庸
加ふるに甜瓜食ふたる凝覺哉　むら

第卅四席　桃川燕玉演

時に松平和泉守進み出でまして 和『アイヤ兩院の別當より仔細御尋ね申し度、イザ御着座あらせられるやう」淳和弉學兩院の別當源氏の長者と云ふ、是が德川家の御職掌だ、兩院の別當と言へば差支はない、そこで中山殿が 中『ホヽ─兩院の別當とあらば宜し／＼、座に着く」と始めてドッカリ其處に座つた、宛ら八万奈落のどん底から大磐石の生ひ出でたるかと疑ふばかり、びくともするのではない、ドッカリ其處へ中山殿が御坐りになつたのは、挺でも動きさうな氣色は見へませぬ、松平和泉守進んで 和『今般將軍御不審の儀は、當時公卿方の不行跡多く、元來議奏役の貴卿御棄置きに相成るは何事にて候や、此儀承り申すべく……中『ホヽウ其儀は麿一向に存せぬ 和『イヤ存せぬでは相濟みますまい、速に御答をなさい 中『何者が如何なる不行跡を致せしや、本人名前まで申し聞けますやう」和泉守『さればでござる」柳原大納言烏丸通りへ古着店を出し、在京の武士其前を通行なす時は袖を引止め、衣類等を高價に賣付け候など、則ち高位高官の御方にあるまじき御所行でござる、何故之を等閑に御棄置きなさる」中山殿が『是は又珍しき事を承るもので、して柳原大納言と標札を出して商賣を致し居るか 和『イヤ／＼左樣ではござらぬ、官名を略せし柳屋大助と暖簾を出してござる」柳原大納言と云ふ古着屋はない柳屋大助、種は柳原大納言…… 中『フームそれ故に柳原大納言と申すか、コレ江戶の市中に尾張屋大助と云ふ町人がある時は、是は尾張大納言が商ひを致すと認め、紀の國屋忠助、水戶屋才助などゝある時には、水戶の宰相紀州中納言と認めて之を咎むるかどうぢや、京都町人の中に柳屋大助と申す者があればと云つて、之を不埒とすれば際限のない事である、されば江戶將軍ですら長崎に於て唐船と交易を致すと承はる、京都にて一天萬乘の君を守護なす公卿雲上人、よも左樣な不行跡は之あるまい、若し萬々一有之時は直ちに生擒つて關の方へ送り遣はせ、公卿一統を支配なす愛親、屹度仕置を申付けるであらう、町奉行所司代を何の爲に京都に差置くや、和泉返答あるかどうぢや」大眼を睜いてハッタと睨んだ、松平和泉守ハッと云つて口を噤んで何とも云へませぬ、其實柳原大納言が資本を出して古着屋店を出してあるんだが、成程中山樣の仰有る通り、柳屋大助ぢやどうも仕樣がない、尾張屋大助水戶屋才助、紀の國屋忠助なんて無い事はない、一々それを兎角う言ふ譯にはいかぬから、和泉守殿が閉口をなさると三州吉田の城主松平伊豆守殿御進みになり 伊『アイヤ中山殿へ御尋ね申すが油小路宰相には贋金を吹き出し市中通用を致させ候由、是等を御棄置きに相成るは何事にてござる、此儀承りたい」中山殿が『イヤ公卿にも存外の不屆者が是ある、贋金を吹出す……して、金の價は何程の通用ぢや 伊『さればでムる、銀二朱にムいまする 中『して關東にては、贋金を使し者は如何なる罪に定め候や 伊『されば親殺し主殺し贋金吹、又之れを使用せし者は磔と申す極刑に行ひ升る 中『フーム屹度左樣か 伊『詐りはございませぬ、如何にも左樣でござる 中『如何伊豆、少々尋ねたい事がある、そつと前へ進め、只今申した銀二朱は贋金にせよ、江戶表に通用致し居る銀二朱が何年何月、幾日、勅許になり何年何月幾日より通用今日迄拜日致した事はない、尤も金二朱は奏聞を遂げ勅許ありしが銀二朱は一向に存せぬ、我日本の御國は天子の物と思ふか將軍の物と心得て居るか、普天の下率土の濱王土王民に非ざるはなし、時の天子に奏聞も遂げず將軍之を勝手に吹出して使用せしは、先づ將軍が贋金吹き、贋金使ひ、然らば江戶將軍を京都へ引立て伊豆汝が申せし通り磔の極刑に掛けて、而して後油小路宰相を罪に行ふべし、伊豆返答あるか如何に承らん」と伊豆守の前へツカ／＼と御進みなさる、サア將軍樣が驚くまい事か、並居る大名方もアッと言つて驚いた、詰らない古疵が茲に出來したと云ふのは、是が田沼主殿頭田沼山城守と云ふ親子が一頻りどうも大層な勢、其田沼父子が威勢に任せ此銀二朱と云ふものを拵へ、京都へ伺はず田沼親子が通用をさせた、其古疵茲に出來をした、詰らない事を咎め立つて伊豆殿大きに弱つてしまひ、仕方がないからこそ／＼と逃げ出さうとすると中山殿が『コレ／＼議論中に席を立つは無禮である、待て……』越『アイヤ伊豆儀は急病差起りまして藥用手當を仕ります、御勘辨の程願ひまする 中『オ、病氣か人は病の器、病氣とあらば苦しうない」伊豆樣は這々其處を立つたがすつかり味噌を付けてしまつた、是が三州吉田の伊豆殿だけにいづ(柚)味噌と云ふ詰らない味噌を廣めてしまつた。

▲中元御進物用品荷揃
歐米雜貨　洋酒食料品　洋煙草類　金銀細美術品
直輸入商　京城本町二丁目　同　三丁目　辻屋
本店 電話二一四八番
支店 電話二二六六番

一名 宅湯之花
道後温泉鹽は道後温泉を自家にて製し得べき源質なり効能僂麻質斯腸胃病梅毒皮膚病子宮病其他諸般の慢性病に効あり其詳細は効能書に記せるを見よ●定價は一瓶十錢なり一瓶にて一石の温泉を製し得べし●小包料九瓶迄廿二錢十六瓶迄廿八錢迄五十錢五十瓶迄六十錢六十瓶迄七十錢
●伊豫國温泉郡道後湯之町一七六番戶
道後温泉鹽本舖 今井神泉堂
爲替料書留料いらず大坂振替貯金二三六六

▲清潔の下宿▼
客室の清潔ご調理の美味ご御扱の懇切ごを特色こして下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戶橫小路（元花屋跡）
かめ屋
▲懇切の下宿▼

債權讓受けたし
貸付金、商掛代金、其他一般の債權を現金にて讓受け申候に付き讓渡し希望の方は御申込み被下度候
京城長谷川町一丁目
坂本兵太郎事務所（電話千百十四番）

綿わた綿ワタ
たやすくうります
ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋反物類
京城明治町一丁目四ッ角
卸問屋 唐川商店
電話二六一番

藥學博士丹波敬三先生發明
消毒 防臭 殺菌劑 クレシン
韓國內部衞生課御試驗濟
韓國各官衙 統監府各官衙 陸軍各官衙 御用品
販賣元 東京 合資會社 高田商會銀座販賣店
韓國特約店京城本町 天佑堂藥店

日韓印刷株式會社
營業科目
活版、石版、銅版
各種印刷
帳簿裝釘、書籍
製本及ビ印刷
諸材料販賣
遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御高需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候
本社 京城明治町三丁目 電話三二三番
出張所 東京麴町區麴町八丁目十九番地 電話番町二九〇番

來る卅日はお盆
●中元進物として櫻正宗瓶詰
●夏期衛生的飲料として

中元御祝儀として正札より一割引
呉服半衿帯上帯締其他紐類各種
京城明治町一丁目
ゐるり徳商店

京城新報

韓人の貯金

歐米人は貯金と保険を爲さざるものは廿世紀の文明を咀嚼する能はずとなす、我國の諺にも恒產なければ恒心なしと云ふことあり是れ平生の貯蓄を意味するものにして歐米人の貯金をなし保険を附せざるものは文明人に非ずとなすと同一意味たる也、試に南米比律賓及亞弗利加等の土人を見よ、南米及び比律賓土人の如き文化の程度に於ては可なりに進歩し居るも、其經濟思想は極て幼稚にして殊に貯蓄の念薄し、彼等は今日に至る迄唯皮想の文明を遂ふのみにて其根源たる經濟思想を沒却せるが爲に文明國人と伍する能はざる也、經濟的思想なき文化は皮想のみ、貯金は國民經濟思想の發動也、故に國民文化の度は其貯金の多寡によりてトせらると云ふも敢て過言にあらず國民にして經濟思想缺乏せば其國の貧弱は到底免る可らず、一國の勃興するとせざるとは國民經濟思想發展如何にあり、何れの邦國に於ても國民經濟思想の發動は一面に於て貯蓄となりて現れ來る、是を以て國民貯金の多寡により其國の盛衰をト知し得ると云ふも亦可ならむか。

飜て韓國人の經濟思想を見るに積年の弊政により經濟思想は滅却し從て貯蓄心の如きも甚だ乏しく、之が爲に產業萎縮し國民は貧弱に流れて唯々眼前の小康に安んずるのみ、然らば韓國人は終に文明を咀嚼する能はざるの民たるか、現在表面に於ける狀態を見れば殆ど失望の歎なきにあらざるも茲に微かに一道の曙光あり、そは何ぞや、輓近に於て彼等は貯蓄の必要を認めたるが爲か、逐年貯蓄の增加しつゝあること也、之れ明に彼等に經濟思想の起れる徴證となすに足らんか、去る三十八年頃に於ては韓人の郵便貯金は極て僅少なりしが去る五月末現在の貯金を見るに其貯金者は一萬二千百九十三人にして貯金額は八萬七千二百八十圓也而も近時益々增加しつゝありと云ふ併し現在に於ては餘りに少額にして是を以て韓人經濟思想の發動とは見る可らざるも漸次增加しつゝありとすれば亦決して失望すべきに非ず、果して韓人にして文明の根底たる經濟思想が漸次發達するものとすれば韓國人は慥に文明を咀嚼するの素質ありと云ふべし、韓國人が果して文明を咀嚼し得るや否は今將さに試験中に屬す、要するに今後韓人の貯金が益々增加し來るとすれば先以て文明を咀嚼するに適當なる素質あるものと見て可也、帝國の保護政治實施以來韓國人を啓發したるもの尠なからず、貯金增加の如きも亦其一ならむ、若し夫れ現狀の儘を以て進達するに於ては韓國人の前途も敢て失望すべきにあらざる耶。

東京電報

▲大藏省劵の發行 二十五日期限なりし大藏省劵の中八百萬圓を償還し二百万圓を借替へ更に新省劵一千八百萬圓を發行す日歩は一錢一厘なり

▲露國學生の觀光 露國大學生十一名觀光の爲め昨日神戸に上陸本日は大坂を見物したり

▲又々關西の地震 昨日午後復も關西に地震あり曩に半壞せし家屋も全く潰滅し人心恟々たり

▲英國豫算案爭論 英國下院に於ける豫算案に關する爭論激烈を極め議會は解散を見るに至るべし（以上廿五日午後着）

▲韓銀定欵の認可 松尾韓國銀行設立委員長より認可申請中なりし韓國銀行定欵は本日大藏大臣の認可あり

▲韓銀常任委員會 常任委員は本日設立事務所に集會し株式募集方法に關し審議する所ありたり

▲安奉線の改築進捗 安奉線改築に關し始め淸國官憲は苦力の就役を妨害したるも中央政府の注意に依り昨今は苦力の應募を勸誘する狀態となり工事些の支障なく進捗し居れり（右廿五日）

紐育電報

▲渡米團体と米紙 シャートル市發行のポストインテリゼンサーは渡米實業團歡迎の一論文を掲げ曰く斯かる代表的實業家一行は未だ嘗て何國よりも米國を訪問せる事なし故に全米國の商業團体は此一行の使命の重要なる所以を覺知して以て日米の商業的利益の增進を計り益々其親善なる國交を維持せざるべからずと論述せり（廿五日東京經由）

雜報

●即位紀念と祝節 明二十七日は現韓皇の即位紀念日に相當するを以て韓國各官衙及諸會社銀行は業を体み祝賀の意を表する由又韓皇室に於ては當日文武百官の祝賀を受けさせられ盛なる祝賀會を開かせらるゝ議ありといふ

●伊藤公爵の答電 去る二十三日伊藤公に宛て東宮御見學中の勤勞に付御親電ありたるに對し昨二十五日同公爵より答電ありたりといふ

●統監と水利事業 曾禰統監の產業政策として鐵道の布敷及び道路の修築に大資金を投ずべしとの事は世人の既に知る所なるが猶統監は全國の農作物が年々豐凶の差甚しきは一に灌漑の如何に基くものにて水利事業の興廢はゆるかせにすべからざるものとなし全國に無數の溜池を築造するの計畫を立て彼の英國が埃及の水利事業に成功せる如く農商工部に於ては目下之れが調査を爲しつゝありといふ

●教科書と度量衡 改正韓國度量衡法は向ふ十日以內に於て法律として發布せらるゝ由なるが元來度量衡に對する觀念頗る幼稚の域にある韓國民に向つて之が必要を自覺せしめ改正法の精神を皷吹し一般的普及を計るは司法施行上の大急務なるを以て農商工部にては其一方法として教科書に度量衡を編入し先づ兒童の頭腦に深き印象を與へんと欲し學部に交渉する所あり學部にても既に同意せるを以て該法發布の上は教科書に編入を見るべしと尙ほ農商工部にては參考品として各學校に度量衡の寄贈を爲す由なり

●國債報償金問題再燃 國債報償金はベッセル氏死去と同時に一問題となるべきとは誰人も豫想したる處なるが果して國債報償金總合所々長尹雄烈、同所役員金允五、金麟の諸氏は過般ベッセル氏未亡人に對して該金の始末を糺したるに亡夫は五千圓程預り居たりと語り居たるも今同金の所在を知らず其他は一切不明なりとのことに尹等は豫て故ベッセル氏はアスタアハウス及コールブラン氏の經營に係る銀行に同金を預金せる旨を聞込めるより直ちに兩所に向つて交渉を重ねたる所故ベッセル氏とは金錢の貸借あるも總合所とは何等の關係なしと跳ね付けたるより然らばベッセル氏死去の上は同金に關する責めは未亡人にありとし此程英國總領事に向つて之れが調査方を請願したりと

●皇室所屬山林の處分 從來皇室に附屬したる山林は內垓字、外垓字を併せ隨分多額の面積を有し居りしが外垓字の山林は昨年八月付を以て國有に移屬したるを以て殘りは內垓字の山林にて李朝の分八十三個所あり這は國有に移らざる皇室附屬の山林にして其の面積は目下調査中なれば明かに知り得ずと雖も所在は重もに京畿道にて水原の如き一個所にて約千町歩以上のものありと云ふ

●鹽田開拓工事の近況 韓國政府が興業銀行借欵額より百二十餘萬圓を割き三箇年計畫を以て鹽田開拓中なる由は豫て報導せし處なるが該工事進捗の工程に就き當局者の語る所によれば廣梁灣に於ける鹽田は目下種々なる事情の爲め本年中には百二十町歩以上の竣工は六ヶ敷かるべし然れば全計畫一千町歩の完成を告んには豫定の年限以上を要するやも計可らずと

●屠獸規則と地方費目 屠獸規則第五條に屠獸檢查屠獸檢查員檢查料屠殺解体料並に屠獸場取締に關する必要なる規定は內部大臣の認可を得て地方官之を定むとなるは屠獸稅は地方費に充てらるゝこととなりたる爲めなるが右の如く各地方官に於て之を定むる結果各道取締法を異にし一定なる能はざるべし云へり

●明太魚組合の合併說 京城內の明太魚商たる北魚組合所、進興組合、所典洞組合所、興產組合所は合併して大發展を遂ぐるの議纏まり去二十日總會を開き總裁俞吉濬一場の演說をなせしが如何なる理由にや趙事九と云へる男盛んに反對の氣焔を揚げ居たりといへり

●伊藤公へ寫眞帖贈呈 統監府は伊藤前統監へ紀念の爲め在韓日本高等官並に同待遇者韓國高等官同待遇者にして伊藤公爵在職當時の現職者寫眞帖並に各廳所管經營事業實況風景等の寫眞帖を製作し之を贈呈する由なり

●韓皇儲歸韓の建白書 正三品洪恭斗なるものは此程中樞院に對し日本留學中の韓太子御歸韓に關する長文の建白書を提出したる由なるが同院は秘して之を漏さゞるに依り其詳細を知るに由なし

●在京各國領事の異動 在京城米國領事は賜暇にて白耳義及佛國の二領事は交迭して近々歸國の筈なるが米領事は來月一日出發其他は未定なりと

●歩兵廿七聯隊の歸還 駐韓步兵第廿七聯隊は本月廿九日發三十日釜山より第二南越第三琴平兩滊船にて歸還

●莞島燒木の公賣 例の莞島國有林は先般火災に罹りたるが其燒木四千二百五十本此材積貳千七百四尺締〇七四百五十棚六八を公賣することゝなりたるを以て希望者は九月二十三日迄に入札すべしとなり

●來年度新築官衙 內部は經費節約の目的を以て來年度は可成新事業を起さゞる方針なるが郡衙其他の官衙にして事實破損し執務に堪わざるものは之れを新築する筈

●慈惠醫院と軍醫 全州、淸州、咸興の三地に新設せらるべき慈惠醫院々長は便宜上、其地駐在の軍醫に囑托する筈なるが尙ほ醫院の經費は總額五萬圓なりといへり

●會計檢查の終了 韓國憲兵隊に於ける會計檢查は一昨廿四日無事終了したりと

●未勘金整理委員 左の如く任命あり

度支部次官 荒井賢太郎
命臨時國稅未勘金整理委員長
內部土木局長 劉猛
度支部司稅局長 鈴木穆
度支部書記官 藤川利三郎
內部書記官 平渡信
命臨時國稅未勘金整理委員

●判事任命 十九日付左の任命あり

任判事奏任官三等 河原知亮
任判事奏任官四等 中井兼太郎

●三航路の損失額 韓政府より三万圓の補助金を得て釜山を起點とし木浦、濟州島、迎日灣の航路を經營せる釜山滊船株式會社の營業成蹟を聞くに七月中に於ける登載貨物は四百五十九噸乘客三千二百二十五人にして損益計算によれば一千百十三圓三十六錢の損失を見るに至れる由而して以上三航路を比較するに其損失程度は釜山木浦を第一とし濟州島を第二とし迎日灣之に次ぐ尙は七月中航路の概況は北韓より明太の接續貨三百餘個と釜山よりの統營三千浦麗水に至る米食耕品雜貨及び木浦濟州島に至る石油木綿燐寸雜貨の輸出を主要とす、又輸入に於ては馬山巨文島よりの牛皮鰮海產類及び統營より麥を主もなるものとす殊に釜山、群山、迎日灣の商業は頗る順調にして頗る有望なり尙ほ馬山統營三千浦麗水の各地は移民益々增加し統營の如き本月に於て移民の數九百余名に激增せり

●統監の病狀不良 曾禰統監は發病以來意を用ゐて療養に勉められし結果一時は經過大に良好なりしも前週より亦た重態となり再昨日菊地大韓醫院長を始め數名の醫師統監邸に參集し今後の療法に付鳩首凝議の上平井軍醫總監の渡韓を乞ふこととなれり聞くところに依れば子爵の病氣は腎臟炎と胃癌の併發したるものゝ由にて假令一時は療養の結果輕快を見るべきも何にせ老体の事故急に全快することは到底覺束なかるべしと云ふ、因に統監には醫師の勸告により前週以來令息及び侍女を別居せしめ又來訪の客へは總べて面會を謝絶し居らるゝとの事也

●新任憲兵隊長の略歷 韓國憲兵隊長に新補せられ本日着任すべき榊原少將の略歷は左の如し

明治八年陸軍幼年學校入學▲十年士官學校入學▲十二年任工兵少尉▲十六年任工兵中尉▲二十三年任工兵大尉▲二十七年第一軍工兵部副官▲二十八年任工兵少佐▲叙從六位補工兵第一大隊長▲同年功五級金鵄勳章▲三十一年士官學校教官叙正六位叙勳五等瑞寶章▲三十二年陸軍大學校教官兼砲兵會議々員▲三十三年工兵操典改正編纂委員▲三十四年補教育總監部參謀▲三十五年第三第四師團特命檢閲使附任工兵大佐叙正五位▲三十七年補第三軍工兵部長叙勳四等瑞寶章▲三十八年任陸軍少將補築城本部長▲三十九年功三級金鵄勳章勳三等旭日章從軍記章▲四十二年免本職補韓國憲兵隊長

●水上警備船の竣成期 暴徒討伐密漁船取締りの目的にて水上警備船十六隻を新造し其內一隻は不日竣成すべきに付關稅局よりは深尾事務官、內部警務局よりは白井警部之れが受取の爲め大阪へ出發の筈なるが尙殘余の十五隻は來月十五日を以て竣成の約束なるが竣工の上は暴徒討伐に使用するものは一度釜山へ廻航して夫れより全南の各所に配置し密漁船取締りに使用するものは仁川へ廻航し其上にて黃海平北の沿岸へ派遣すべしといふ

●龍山東本願寺布教所 同派にては是迄龍山に布教所を設けず例月南山本願寺別院より定例出張せしが今回別に布教所を設くることゝなり其主任者として京城別院駐在布教師たりし宮城開教師へ本山より任命ありし由にて當分榮町を假布教に宛て今二十六日午後二時開教式を舉行すと尙ほ當日は特に龍山布教監督及び井波翰香の出張あるよし

●龍山驛二旬間の收入 本月十一日より二十日間に於ける龍山驛の乘降人員は六千百五十二人發着貨物は千〇四十七噸其總收入八千七百〇七圓九十一錢

●瓦斯會社總務課移轉 十五間違路事務所內の總務課は此程引繼を了したる鐘路元韓美電氣會社跡に移り龍山事務所內には營業及製圖の二課を遺せる由

●榊原憲兵隊長の着任 新任憲兵隊長榊原少將は廿五日午前下關出帆の連絡船に乘じ同夕刻釜山に上陸し一泊の上今廿六日午後八時十分南大門に到着す

●ベッセル遺族留別會 故ベッセル氏の遺產處分は畧其の結を告げ不日歸國すべきに就き去廿四日亡夫悲懇の者數十名を自邸に招待して留別會を催せり

●密使未亡人の渡歐說 海牙に於て毒を仰ぎ自殺したる海牙密使事件の張本人たる李儁の未亡人は亡夫の後を弔ひ其遺志を傳へんとて近々渡歐すべしと

●永登浦の新市場開設 同地總代等の發表にて開設の計わりし日韓共同新市場は同地財務署附近の空地をトし準備中なれば遠からず開市を見るに至らん

●一昨夜來の雨量 昨二十四日の氣壓配置は緩漫にして高低氣壓は差少なく風力弱くして爲めに蒸し暑く日射强かりしが昨夕に至り少なる低氣壓の通過したる爲め驟雨となりたり而して雨量昨夕より今二十五日午後一時に至る迄に於て五十二粍、日本桝に換算するときは一坪九斗五升の割合なるが內最も烈しかりしは昨日の午後零時半より一時半に至る一時半にして其雨量二十二粍我が四斗餘にして斯の如きは本月に入りて以來多量なり今後の天候は良好となるべき豫測なるも蒙古附近にある低氣壓の進行如何によりいかに變ずるやも測られず

●雨畫伯の揮毫會 渡部鮮古、飫田稻香の兩畫伯は觀光の途次過般來韓したるが鮮古氏は棣逸の高弟にして嘗て不老富貴孔雀の大作を韓皇室に獻納したるの士又稻香氏は瀧和亭門下の秀才にして共に帝都知名の畫伯なるが今般來京を機として兩畫伯會を催ふし一般好雅の士の需めに應ずる由なるが會費は一口金十二圓なりと云へり

●黃州の鑛山經營 平壤藤山定七氏の所有たる黃海道黃州天柱坊鑛山は豫て英國商館と契約せる軌條及滊關車英京倫敦より着荷せしに付き來月初旬內地より回送鎭南浦へ到着するを以て將來大規模に經營する由

●道書記官の官舍 本年度に新築せる道書記官々舍は八ヶ所なるが殘余の四ケ所及漢城府事務官々舍は來年度に新築する筈にて之が經費は同年度の豫算に計上すべしと

●松村國手の開業 曾て仁川病院長として令名ありたる松村三省氏は龍山に新築中なりし家屋も全く竣成したるを以て同地に移轉し不相變刀圭に從事する由なりと

●日匹主計の送別 龍山第六師團經理部長日匹主計正は今回榮轉するに就き去二十三日將校一同は八景園に送別會を開けり

●大韓工學會發起 各廢官將校發起となり大韓工學會なるものを組織せんとし既に趣意書を頒布し九月五日發起總會を開く筈

●菊池院長の轉居 大韓醫院長なる菊池博士は今般大和町元副統監邸に移轉したり

●石塚長官の引籠 石塚總務長官代理は敍恙の爲め昨二十五日より引籠られたりと

●篠田事務官東上 來京中の間島駐在篠田事務官は明二十七日出發東上の筈なりと

公人私人

▲堀內權三郎（八重山艦長） 廿四日歸艦
▲中陵敬藏（會計檢查院部長） 廿四日入京
▲川添久重（會計檢查官補） 同上
▲白井義三郎（內部警務局警部） 廿四日歸任

近事片々

▲我東宮殿下には日光に避暑在らせられ時々畧裝にて御散歩在らせらると承はる
▲一日輕快なる御姿にて御散歩中通行の老農夫殿下に向て含滿ヶ淵への道を問へり
▲殿下には微笑を含ませつゝ最と懇ろに訓へさせ給ふと聞くだに最と難有心地ぞす
▲御附の者より殿下に在します事を聞き老農夫は難有涙にくれて暫しひれ伏せりと
▲殿下の民草を憐れませ玉ふ御心はいと畏し傲慢なる役人共も些と態度を改めよや
▲伊藤公は不日亦韓太子を伴ふて日光に遊ばんと聞く老躰の南船北馬嘸や疲勞せむ
▲一年の中に斯く諸所への旅行せざるも亦來年有老躰國家の爲に御自愛專一と存候
▲或者は公の南船北馬を政友會擴張の爲也と許す是れ地方政友會員が歡迎する故也
▲今や公は政友會と關係なしされど政友會員は公を以て後援者と見做す是公の迷惑
▲御用紙の竹栅閑話には暴徒上りの許抗とか云ふヨボの言ふ事を眞面目に書て居る
▲ヨボの誤託を眞面目に紹介する筆者の面影紙上に遺憾なく映る茲が御用紙の面目
▲如何に觀光團に加入したりとは云へヨボのお世辭を紙上に臆面もなく書くは恐縮
▲貴重の紙面をヨボのお世辭にて埋めろ竹栅閑話子は賢なる哉流石は御用記者に
▲日本の外交は兩頭也と有賀博士は[illegible]ず兩頭とは寺內陸相の武斷と小村の資本外交
▲寺內は頻に斷乎たる所置を希望し小村は頻に迎合主義を主張す桂は其間に苦むと
▲麒麟も老ひては駑馬に劣ると小村も病弱の故か近來頻に老ひたり早く退くが賢也
▲米國亞細亞土耳古に大事業を計畫す歷山よりユウフラテ上流に達する鐵道布設
▲信州淺間山此頃頻に鳴動し人心恟々たりと左もあらむ伊吹山倒潰の例眼前なれば
▲鈴公の逆鱗は最早懲り懲り々淺間山はドウか鳴動のみとせよ鬚篦で鈴公を抑へ付よ
▲此頃大坂道頓堀の中座に桃中軒星右衛門現はる雲は師の雲に及ばざるも熱心也と

●北韓命令航路の近況 釜山雄基間[illegible]月中に於ける命令航路の[illegible]船の漁獲盛なりしに依り活氣を帶びて之れが輸送を見るに至りし由にて釜山元山共前[illegible]將來諸道發展の曙光にして唯だ惜むらくは寄港數漸かに一ヶ月二回に過ぎず然れども輸出重要品は釜山の粟、石油、鹽、米、陶器、迎日の米、江原道の干鰮若目及明太なりと云

●此程來引用者に對し契約を開始しつゝあり

●小城所長の歸任 小城平壤營業所長は

告書に依れば咸鏡道は雨期に入りしを以て出荷從前に比し少なかりしも江原道は夏なりしと同時に江原道は航路開始後漸進の兆ありしが近來日韓の旅客著しく增加せしは山との接近に關係多く敏活の商取引を爲す能はざるは該地人民の遺憾とする處にして

及他の少部分を除く外大抵埋設工事を終り追々營業開始期にも近きたるを以て會社は

●配達出拂　午後七時

●貴婦人の墮落（其六）

▲天下の大通曾禰統監　▲京城日報の不心得　▲破倫……破德……の奬勵

▲**五代目延壽** 如何に名人なればとて素之一個市井の藝人に過ぎず其市井藝人たる延壽が　皇太子殿下の御間へ立入るさへ不敬の極なるに朝夕此**神聖**の間に起臥して憚らず剩へ卑猥なる淸元の浚へを此室に於て爲すに至つては言語同斷沙汰の限りと云ふべし尤も延壽等が斯く振舞ふも實は大岡小宮兩氏の肝煎に因るなりとは前回に記せしところなりと雖熟ら〳〵思ふに如何に**非常識**なる大岡小宮兩氏にても**邸の主人公**たる統監閣下の承認を經ずして斯くも不敬に當る大膽なる肝煎を爲すべしとも思われざれば矢張り**責任は統監の肩上に掛り來る**べきか、記者は是非共本件の眞否を知り度ものなり

▲**統監の召集** 御用紙京城日報に本月十二日の紙上に於て淸元延壽太夫來ると題せる記事中延壽の談話として下の如く記述せり曰く「昨夜は閣下から是非にとの御所望で一段語りましたが閣下は其れでは**統監府の奥樣方**を四五人呼寄せようと仰ふせられましたが、意外に澤山……十餘人もれいでになりました語り物は御祝儀三番叟で**明烏**の二段で御座いました云々」

▲**愚なる御用紙** にして麗々敷二號標題を以て報道せざれば世間は知らずして止む世間にして知らずして止まんか素より**貴婦人墮落**問題の起るべき動機とも成る筈なし然れども馬鹿の贔負が味方の引倒しを爲すの例に洩れず**京城日報**は大岡社長の筆とおぼしく左も統監の提灯持らしく事もあろふに藝人風情の談話を自慢らしくも報道したり

▲**語り物明烏**は山名屋の女郎浦里と遊治郎時次郎との**女郎屋**に於ける**情事**を寫したるものなり、其面白しとして俗人に喜ばる所以のものは**廓の戀の悲慘**なる點が遺憾なく寫されたるにありされど〳〵其文句の猥褻なるは到底風俗壞亂物たるを免れざるなり

▲**延壽太夫** の談話を眞なりとすれば曾禰統監には廓の情事なる明烏を御自分許りにて聽き玉ふは惜しとして延壽の所謂統監府の奥樣方を召されしなり難有は統監の思召にて統監府の奥樣方さて皆々亭主あり子ある**一家の主婦**なるに夜の九時より非常召集を受け例の**れや**ゑぞのと同列にて傾城浦里と**馴染客**時次郎との情事の次第を聞されんとは

●**僞教員の罪狀** 仁川仲町二丁目居崎旅館に中學校教員阿川義一と稱する曲者宿泊し居ることを仁川署刑事が探知し引致取調べ居たることは昨紙記したる所なるが尙其後嚴重取調べたる所彼れは遂に自白に及びたるが其の言ふ所に由れば原籍は島根縣美濃郡種村野村菊一と云ふものにて前科二犯を有する曲者なるが去る三十八年頃當仁川民團の雇員となりたるも思はしからず其後安東縣に渡り窃盜を働き五箇月の刑に處せられ昨年十二月刑期滿ちて出獄したる以來小學校教員にならばやと原籍を變更し僞名の履歷書を各學校に出しありしが一向に好き口なきより去る十二日仁川に來り尾崎旅館に宿泊したるなりと申し立てたるが尙同旅館に宿泊中忠淸南道田代猛夫を詐まし兩人にて敷島一山等にて三十圓餘を費消したることあるより目下尙取調べ中なりと

●**開城郡の賊徒** 八月二十一日午前七時開城郡北東面吉水里南台里々長朴奎黃宛暴徒首魁延基羽より軍需金二萬兩を調達出給すべしとの命令的書狀を特使を以て送附し來りたるを早くも我溫井院憲兵分遣所の知る處となり上等兵一補助員三名を急派し搜索せしめたるに長湍郡小南面紅花里附近に延基羽の率ひる三十二名の賊徒潜伏し居れるを發見したり然るに賊は我の少數なるを侮り發砲したるを以て應戰一時間餘にして其三を殪し數名を負傷せしめ殘徒は敗走同所を去る一里許の山林にて蹤跡を失したるにより一應鹵獲品を携へ歸所し更に上等兵二名に補助員三を附し追擊せしめたり

●**暴徒の慣用手段** 近來暴徒は數に於て減少せしも其實力に於ては侮り難きものあり殊に彼等が携ふる所の武器は漸く進步し火繩銃の如きは少數にてモーゼル銃拳銃等の精銳なるものを使用するに至り且つ數の小なる丈け團結力堅く而して頭目彼等が慣用する所の手段は有力なる良民を拉し去りて人質となし其村落に金穀を强請するにありて此手段は彼等にとり成功せるものゝ如し當局者に於ては之等の首魁と目せらるゝものを專ら捕縛せんとて苦心中なりと

●**釜泥棒捕はる** 再昨二十四日午後五時頃明治町派出所前を三十歲前後の風体怪しき韓人の日本釜を持ち通行せるより呼止めたるに言語曖昧なるより引到取調べたるに此奴は西署西小門内居住林天和([illegible]〇)に て前記釜は本月十八日永樂町二丁目九十五番戶沖中庄太郎方にて窃取せし旨自白せしも尙不審の廉あるより本人宅に臨檢せしに同樣の釜一個を隱匿し居り外に二三個は既に某古物商に販賣せる見込みにて取調べ中

落合君と妾と湯

度支部會計檢查部長たる落合君は元馬政局の事務官で曾禰統監の子分である、殘馬に「ガラ」が禁止となつて火の消た樣な始末となつては馬政局の方も一向面白く無くなつたソコで君は親分統監の力を藉りて韓政府に入り現在の重要位置を占めて目下一生懸命官宅の普請を取急いで居られる、扨是丈なれば話にはならぬが君が官宅の普請を急ぐに付ては一寸滑稽な原因がある、曰く君には一人の愛妾が附いて居る而して目下其愛妾と共に某所に假泊して居る、只ソレ丈なれば之も話にはならぬが、而し茲に話の種となることは君が毎晩其愛妾と一ショに風呂に入つて風俗壞亂を演ずることである、或晩露湯も爲に濁らんとするとき何所よりか一人の裸体漢が飛込んで來た落合君大に驚き且つあわて其男に失敬など叫んで退場を命じた而し其男はドッチが失敬かと一向構はず岡燒半分風呂船に飛込んで遂に落合君の興を破つて仕末つた此事以來落合君は何をするにも自分の宅でなければいかぬと官舍の普請を急いで居るのだソウである

●**强盜に襲はる** 本月廿三日午後九時三十分頃林浦東幕二十六統八戶鎭定澤方に短銃及棍棒を所持せる四名の韓人强盜押入り主人鎭を縛して脅迫し金品を强奪せんとせる折柄恰も巡回中の巡查來りしかば賊等は遂に一物も取り得ず逃走せりと

●**新聞配達人溺死** 大韓日報配達人山口縣人龍山漢江通四丁目山田屋に止宿中なる藤本辰市(十九)は二十四日午前十一時三十分元町一丁目川岸にて游泳中誤つて溺死を遂げたるを以て竹村巡查部長上田醫師現場に出張檢死を遂げたりと

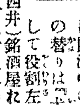
●**狂犬に咬まる** 太平町五十七番戶岡田こと長男藤太郎(十四)は一昨二十四日同町に於て韓犬に左足を咬附かれ最寄派出所巡查出張警醫院に伴ひ應急手當をなし一方警視廳獸醫をして檢診せしめしに狂犬病の疑ひあり依て直ちに撲殺屍は燒棄せしと

●**義州の虎列拉** 虎の住む北韓に近來虎疫發生し去る二十四日の如き義州警察管內に虎列剌患者五名の多數發生し內二名は直ちに死亡せりと

●**守備隊の赤痢** 後坪里守備隊に本月九日より十八日迄三名の赤痢患者發生せしも消毒豫防に全力を注ぎたる結果蔓延の虞なしといふ

●**派出所內に曲者** 昨二十五日午前四時半頃當地竹園町邊を巡回中の巡查が同町元韓巡查派出所中に一人の男寢ね居るを認め引起し取調べたるに熊本縣熊本市光林寺町二十六番地士族無職西岡直樹(三八)と申立てしも怪しき節あるより本署へ同行取調べ中

●**郵便局破り處罰** 十數日前京城新町郵便局に忍び入り窃盜を働きたる山口縣生れの宮川庄市(三十)の公判は一昨日仁川理事廳內にて開かれたるが前科あるを以て加重せられ懲役八箇月に處せられたり

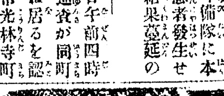


△**歌舞伎座** 旭町歌舞伎座に開演中の彰義隊一座本日の替りは『大花魁』全七場にして役割左の如し

娼妓薄浦(西井)銘酒屋れ樹(桂木)水澤史郎(河野)同丹山(角村)仲居れ竹、乳母れもと(中村)地廻り金太(大和)警部國野明新平(有村)車夫榮太、出前持(北村)若者仙吉(木下)幇間花丸(三島)壯士齋藤(美崎)壯士井上(篠崎)橋本祐治(愛澤)れはり婆々れとら(高島)

●**釜山の伊東劇**

久敷く好劇に渴したる韓國の劇壇は斯界の寵兒伊東文夫の再渡韓に依つて大に色めきし投機である、彼れは新進の腕揃を撰つて去る廿二日釜山座に盖を開けたが近々當地へも來る樣子である、今回の出し狂言として重なる者は『白虎隊』と『潮』とである『白虎隊』の筋に就ては許者は之を知らざるも會津少年の氣概を示したる武士道劇にして頗る雄壯なる者だそうな、次に『潮』は彼の佐藤紅綠氏の作で高田、藤澤、河合等に依つて二度迄も本郷座で演じ滿都の人氣を一座に脊負つたと云ふ好劇である、劇の主人公坂巻東吾と云ふ義賊が大に活動する、此の義賊の妹妙子と云ふが戀と義の爲め兄を刺す、文子と云ふ令孃が義の爲め戀を讓る米津と云ふ義俠なる紳士が和田といふ薄命の才子に大に同情を持つ其上且つ富也と云ふ可憐の小兒が貧苦と闘つて盲目の父に孝養を盡すと云ふ大芝居で不如歸、琵琶歌乃至松風村雨以上の好劇である此の坂巻東吾は高田實の書卸しで之を伊東が勤めて居る曾て熊本では同狂言を五回も繰り返したと云ふ位である之れを三日目に釜山座で演じ割れるが如き大入を取つたそうな、今回の同座は昨年に比して大分新しい顏がある小泉、吉野、北秋、芳川は從前の通りだが女形では後藤派の腕利き藤島紫水、立役では香月、笹原其他數名其れに尤も振つて居るのは小役高井の可憐と女優利子の妖艷と當年十九歲の青年が捻ち目鮮かに大隱摩を彈奏する杯は未だ曾て韓國の劇壇では見ざる好團体である(もの字)



◀平民文庫▶

▲豪雨沛然として來る一度は漢江氾濫して龍山を海原にせざれば止まざるにやサテモ氣遣はしや(机憂生)▲貴紙連載の貴婦人墮落問題は頗る急所を刺して遺憾なく快感を覺ゆると同時に又近來の名文として吾人の好讀物たるを失はず記者幸に健在なれ(愛讀者の一人)▲朝鮮日日新聞社の納凉舟遊會は豫想以外の設備整ひ實に愉快であつた社會の先覺者たる新聞紙の天職として爾後時々斯種の催しを續行して貰いたい者である(會員)▲エテ身体の太い人は性質平穩にして嫌味なく可愛氣の多い者である此點に於て自分は仁川鱗樓の老妓千太君を歡迎する彼れの容貌、身体の梅ケ谷式なると同時に氣質も至つて平和である(鱗鳶)▲仁川花柳界の二名花は八坂の桃太郎と鱗の笑子である

容貌の美は或は笑子の方優れたらんも彼れは近來色氣を生じて嫌味を增せり僕は稚氣を失はざる桃太郎の方を愛す(粹氣取)▲去る廿四日の朝支那町月の家の前で大きな牡犬と至つて少さき牝犬が交接して頻りに苦しんで居る處へ同家の女將が自家手飼の一層大きな犬を追つ掛けて喧嘩を强いた、無心の犬は遂に交接中の牡犬を嚙み伏せた爲め牝牡二犬は局部に負傷し出血して居た、動物虐待も又甚しと云ふべしだ、而かも女の身であられもない事だチト自分の身に引比べて見るがよい此の馬鹿者奴が(通行生)

▲大坂大相撲は愈旭町で興行するそうだ請元床梅は自已の利益を拋ち大坂大火の罹災民に義捐するそうだが此所等が即ち俠客の値打だ吾人は大に此擧に同情を持つのである(一居留民)▲京城で長唄を教授なさる處はありませんかあれば本欄で御敎示下さい(長唄好)▲長唄は上流の家庭向き淸元、常磐津は藝妓、新內は女郎、源氏節、浪花節は遊人仲間、義太夫に至つては上下通じて歡迎さるゝと思ふが如何にや(質問生)

自轉車大安賣

角商會代理店
前川自轉車店
京城南大門横

◉**學員大募集廣告**◉

特許 新發明三効式測量法教授 (發明者自ラ教授ス)
米國シビルエンジニヤードクトルオブフイロソフイー 土木工師 山崎園藏
壹ケ月卒業●卒業ノ上ハ免狀ヲ授與ス
本校優等卒業生ハ諸官衙ニ就職ノ途ヲ與フ (詳細ハ本校ニ來談スベシ)
京城黃金町農商工部側通
私立 山崎土木建築實修學校

マルシイド 新曆材料
京城永樂町 藤原支店 電壹八九番

㊝**天氣豫報**(自廿五日午後六時至廿六日午後六時)
南東風少雨後晴れ
廿四日(華氏) 最高溫度 八七、六 最低溫度 七一、一

廣告

公賣廣告

全羅南道莞島國有林
一松燒木 四千二百五十本
右賣却ス買受望ミノ者ハ八月廿五日ノ官報ヲ見ヨ
隆熙三年八月廿五日
農商工部山林局

倭城臺統監府官舍第十七號(元參謀長官舍鍋頭本氏舊官舍跡)へ移轉す
庵原文一
電話五百二番

入院隨意
南山町二丁目
松岡醫院
電話六七五番
各科診療

●**新案富田式耐久靴底發賣廣告**
新案特許出願中(富田式耐久靴底三六八九號 富田式耐久靴踵三六九八八號)

撿廻し一本で誰でも出來る靴修繕

●一本品は靴修繕の必要なし 靴裏に破損を生ぜざる以前に用ゆれば
●本品は安價にして自宅修繕に便なり
●本品は附け外づし自由なれば婦人小供にても容易に取り付けする事を得べし
●本品は旅行用として携帶すべき必要品なり
●本品は如何なる旅行者と雖も十ケ月間破損の憂なし
●本品は踵は回轉自由なり

右賣出披露の爲め弊店にて七圓以上の靴御買求の御方樣へはゴム製上等品一足分尙七圓以下五圓迄の靴御買求めの御方樣へは皮製上等品一足分進呈可仕候

價格●ゴム製上等品 一足分 金二圓三十錢
皮製上等品 一足分 金八十錢
廣告の爲め當分二割五歩引
京城本町一丁目(理事廳前通り)
富田製靴店
電話九一九番

地方よりの御注文は代金引替小包にて差上可申候

▲**EDP** 品質精良且廉價にして御進物に最適當なる高尙優美の土耳古◎埃及**金口莨**及**葉卷** 各種(百本入七十五錢以上)小賣速に御來店御試み給へ見本無代
大安賣卸 本町二丁目
直輸入商 **日希商會**

各種 洗濯石鹸 専門製造販賣
用途
陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、湯屋、散髪、諸工業用
京城旭町二丁目 （電話九七三番）
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

●英文代書 通譯應需 本町一の七五中村
●被雇度 年廿九市内に確實保證人有韓語に通す不問職業被雇たし 氏名在社（四一三）
●韓語通譯 會社銀行又は商店を問はす韓語通譯に被雇たし 氏名在社（四一二）
●望家庭教師 某美術學校卒業生廿三歳市内相當の家に被雇たし 氏名在社（四一四）
●下女入用 年齢三十歳より四十歳迄にして身体壯健なる者至急入用但し月給八圓 氏名在社（四一七）
●賣藥行商人數名募集 希望者は本人直接來談あれ 明治町三の一五七 水田藥房

物件部

●貸地 南大門より停車場に至る右側表通六十坪の貸地あり 氏名在社（四二〇）
●貸家 若草町一にて温突二間疊一間疊敷二間押込炊事場玄關付にて井戸の設置あり家賃十二圓 若草町一の一二九矢島（四一九）
●本町七丁目通にて飲食店造作付のまゝ至急格安に讓渡したし 姓名在社（四二三）

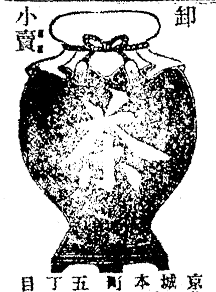
廣告

敷宅地 官吏むき家屋建築に付き格安の宅地二三十坪買入たし 京城旭町一丁目五十三ノ四 安藤

◉開店廣告◉
殘暑之砌各位益々御清榮奉賀候 扨今回左記へ開店仕御料理其他總て江戸子流に御手輕を旨とし開店披露の爲め大勉強仕候間御引立之程奉希候
京城本町六丁目西崎雜貨店横手
會席御料理 しのぶ

◉牛乳 （純良 消毒 檢査濟）
韓國畜産株式會社 南大門外（電話八八番）

商業會議所前ヨリ東突當リ右ヘ半丁上ル左側
土地高燥清凉
高等御下宿 國分旅館 壽町二丁目

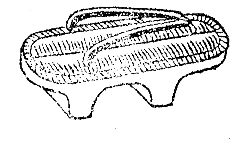
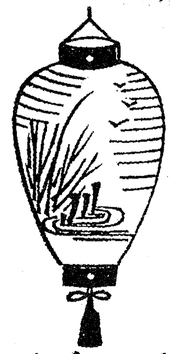


卸 小賣
京城本町五丁目 富士の里茶舗 電話九七九番

土管煉瓦

土管 瓦 煉瓦
陶榮商店の販賣する土管は模範的工場に於て最新米國式機械を以てし知名技師の注意周到なる監督の許に精製せられたる最良品なり
陶榮商店の販賣する瓦は同工場最新米國式機械製品にして酷寒耐久には重き注意を加へられたる最良品なり
陶榮商店の販賣する煉瓦は同工場最新米國式機械精製品にして他に卓越せるは當販賣元の最も誇とする良品なり
右特約一手販賣仕候間多少に不拘御用命奉願候
陶磁器卸小賣 官製煙草元賣捌 土管瓦煉瓦販賣元
(肥) 京城本町二丁目 陶榮商店 （電話百十三番）

旅館
客室は清潔にして完全食事は御好みにより和洋何れにても調進萬事御便利に御扱ひ可申候
西洋料理
食堂は大小の數室あり御人數の多少に拘はらず迅速調理御用に應じ可申候
京城南山町三丁目 （元日本人倶樂部）
京城ホテル 長電話一二三番 電話四九二番

新荷着中元賣出し
東京

來る三十一日まで
五百足限一圓均一 一圓十五錢
利益なし元價の 一張 二十五錢

本店東京 京城大和町一丁目日の出橋際 藤井出張店
電話二一〇五番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候 御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉強可仕候間倍舊の御引立奉願候
京城南山町四丁目 原金旅館 （電話長七〇一番）

明治廿年七月創立
東京火災海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓
● 京城代辨店 本町四山口呉服店 電話九番
● 事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

荒物世帶道具一切
大阪合製白絞油和洋蠟燭
和傘岐阜提灯魚釣道具 卸小賣
地方在住の各位には御申越あり次第代金引替證付又は代金引替小包郵便を以て御送付申上候尚弊店營業品目録御入用の御方は御通知あり次第送呈申上候
荒物世帶道具 各國諸油米穀 銘酒澤龜 アサヒ サッポロ 麥酒 並に買次業
京城本町六丁目 西崎嘉七本店
電話長二一〇 電略（ニカ又はニ） 振替貯金口座東京（九四一七番）

一鴨緑江製材
一北海道松材
各種板類一切 及小割類種々
右今回弊店に於て販賣開始仕候間續々御用命被仰付度充分大勉強御高需に可應候
京城本町五丁目 煙上支店 山本村太郎 電話三七〇番

中元大賣出し
品目
和洋酒、ビール、シャンピンサイダー、炭酸水、素麺、最上鰹節、特撰奈良漬種々、赤白砂糖、宇治銘茶種々、鑵詰、乾物、其他食料雜貨種々
醬油特約一手販賣
本町五丁目 大上商店 電話二五一
各種とも御進物用にして至極優美にしつらゑ候 便利商品切手も調製仕候間多少に不拘御注文の程奉希上候 尚御注文次第遠近を問はず迅速持參可致候

移轉御披露
京城旭町三丁目十六番戸（三日月湯下隣）
東京生そば 東京庵 電話九五五番

消毒殺菌 元祖牛乳 平山牧場
京城大和町壹丁目 電話一三三

熟誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ（紹介ヲ要セス）
京城旭町一丁目六十七番戸
辯護士 岡田榮 （電話三九八番）

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す 弊場夙に此に留意し好良の食料を給す

販賣元 京城本町五丁目（電山七番）
京城東四軒町（電七五番） 松尾支店
搾取所 松尾牧場
●弊場搾取の牛乳を受飲せらるゝ御諸君は最も滋養豊富風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし

處方調劑の依頼に應ず
京城南大門通三丁目 新井藥房本店
藥劑師 小松禎三

◎消閑之清遊◎
毎日午後一 京城明治町一丁目
開會 諸君予陸續御臨を賜へ
京城碁會 （大和湯前〇万隣）
市中之仙境

代理店
京城南大門通三丁目 新井藥房本店 電話一〇六八番九〇四番
京城本町三丁目（電話四七八番） 新井藥房第一分店
京城南大門外 新井藥房第二分店

特定御用 消毒 牛乳 荒井牧場 電話一〇五六

仁川郵船株式會社 出帆廣告
仁川海岸通 電話三十番
貨物及船客取扱店 郡回漕店
●釜山長崎門司神戸行 山東丸 八月二十九日午後三時出
●大連太沽牛莊行 高砂丸 九月九日正午時出
●大連大沽牛莊行 山東丸 九月 日午前四時出
●大連大沽牛莊行 酒田丸 八月廿六日正午
●釜山出帆元山清津浦鹽行 立神丸 九月 日午後出
御注意 御乗船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 一枚金二錢 一ヶ月前金卅五錢 三ヶ月前金 六ヶ月前金 一ヶ年前金
●廣告料 五號活字十九字詰一行一回五十錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久馬一郎
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番